

Artist In Residence Program 2011 Report In SHODOSHIMA

name Mar Cuervo
(マル・クエルボ)

genre 写真

date 2011.9.9 ~ 9.24

profile

Education:

- MA Fine Arts. CSAD (Cardiff School of Art & Design U.K., 2006)
- MA in Photography. E.F.T.I, School of Photography (Madrid, Spain 2005)
- BA in Media Communication. UISEK (Segovia, Spain 2003)

Grants-Awards:

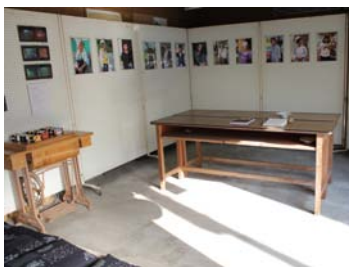
- Grant Fundación Arte y Derecho. "Propuestas 2010".
- Second award Revela 2009. International Forum. The Photographic Report and Society.
- Union Fenosa (overseas artistic creation). Mexico, California, NY. 2007-2008
- Artist Residency. Fundación Rojo Uribeola. Mexico. 2007
- Leonardo da Vinci Grant (E.U.). 3 months residency in the South of Italy (Vibo Valentia Jan-April 2007).

Exhibition:

- 2010 Solo Show. "Al lado del Olvido" Galería 6+1, Madrid (Spain)
- Group Show. Galería 6+1, Madrid (Spain)
- 2009 Solo Show. "Al lado del Olvido" MACUF, A Coruña (Spain)
- 2008 ArtExpo Las Vegas. LA (USA)
- Group Show. "The Circular Exhibition". Gallery Ho, Seoul (Korea) / Hun Gallery, NY (USA)
- 2006 Group Show at UWIC, Cardiff (UK)
- 2005 Solo Show at UISEK, Segovia (Spain)
- 2002 Third Prize of an artistic contest in association with Absolute Art, Nottingham (UK)



▲滞在成果の作品



▲修了展の会場風景

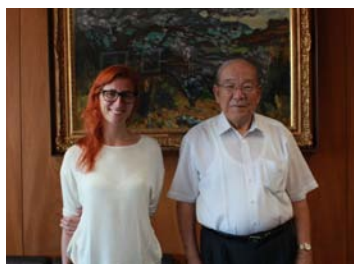
AIR プログラム MAR CUERVO を終えて

AIR ディレクター 富田勝彦

3年目を迎えた小豆島でのAIRプログラム。初めての外国人作家はスペインから来た“赤い髪”のMar Cuervo 女史である。ここ数年来、香川県高松港では、西洋人と思しき外国人旅行者を多く見かける。聞くと「関西空港から入国し、直島〜京都〜金沢を訪ねる」そうである。そこに、昨年の「瀬戸内国際芸術祭」の開催。これでますます瀬戸内人気上がり、小豆島AIRプログラムに外国人作家が参加することを待ち望んでいたのだ。また、今年から小豆島では、制作ジャンルを“全ジャンル”としたことも幸いしたのであろう。世界各地でのAIRに参加する作家は、写真、映像など機材（設備）が少なく、フットワークの軽いジャンルが多い実情を感じているからだ。

さてMARだが「当初の6月のプログラムを、9月に変更して欲しい……」と連絡を受け、中止かと懸念していた。それは、東日本大震災後、日本中のAIR施設から、外国人作家がほとんど帰国したという情報を受けていたからである。しかし、こちらの心配をよそにプログラムは開始され、3回続きのWSは「ピンホールカメラ」という“知りたがりの心をくすぐる楽しい内容”で、大変賑わったという報告を受けた。わずか2週間の滞在ながら、修了展まで開催と密度の濃いプログラムになった。

小豆島初の外国人作家は、写真という軽妙な表現とともに、世界各地でのAIR滞在経験を感じるクールな立ち回りでプログラムを修了してくれた。それは、名勝・寒霞溪の紅葉を予見させる、一足早い赤い風となって駆け抜けた……。



Mar Cervo AIR プログラム報告

オーリーブ生活文化研究所 柳生陽子

初めて海外から、初めて写真家。

彼女は、一瞬のインスピレーションで被写体とするモデルを決めて、さらりと写真を撮って回っていました。彼女の感性は日本人にはないもの。日本人特に島の人たちにとっては当たり前、日常過ぎて何の関心も湧かないようなことに関心があるようでした。例えば、図書館にあった公衆電話を写真に撮っているのです。聞くと、色がピンク色でかわいいとのこと。その他、被写体となる島の人たちの選び方も彼女ならではの視点でした。

ワークショップ参加者からは、ピンホールカメラをただ作るだけでなく、写真のもっと奥深いところにある面白さを教えてもらえたので、良かったです……という声もありました。



▲滞在中のワークショップや創作活動等の様子

マル・クエルボへのインタビュー

Q なぜ小豆島に来ようと思いましたか？

アーティスト・イン・レジデンスで、日本で募集しているところを探していました。日本の中でも、都会から離れている小豆島が、時間の流れがゆったりしていそうだったので、選びました。

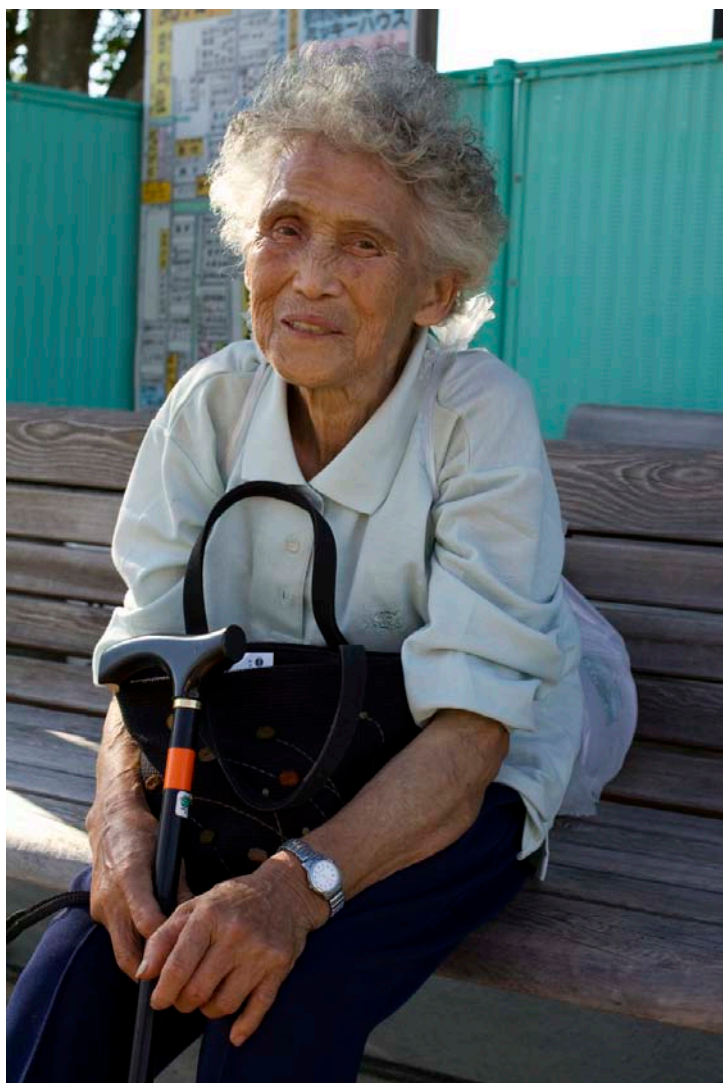
Q 小豆島に来てからの感想は？

スペインとは様々な正反対だと感じました。まず、すべてが清潔です。それはいろんな意味で……まち並みはもちろんですが、におい、耳からはいる音。また、女性は静かでシャイな人が多いと思いました。カルチャーショックを受けることはなく、むしろ心地よく心が落ち着きました。滞在中に京都へ行ってきたのですが、まちの規模が大きく早く小豆島へ戻りたいと思いました。

Q 小豆島の女性のことをどう思いましたか？

みんなとても活動的で、年配の女性も多くの方が働いているのに驚きました。また、仕事に対してプライドを持っているように感じました。

小豆島の女性は、生き方・考え方など、伝統的でありながら現代的な面も兼ね備えていてそのバランスが魅力的でした。



▲滞在成果の作品

共催：NPO 法人オリーブ生活文化研究所 NPO 法人アート・ビオトープ
協賛：小豆島ヘルシランド株式会社 MOPAM 事務局

Mar Cuervo+Workshop
スペインの写真家 Mar Cuervo によるワークショップ

ピンホールカメラを作ろう！撮ってみよう！

ピンホールカメラってご存知ですか？
ピンホールカメラとはレンズを使わずに針穴（ピンホール）を利用したカメラのことです。
針穴写真機ともいいます。今回は、家庭の中にある材料を使って作ります。

2011年9月13日(火) 15日(木) 22日(木)
19:00~20:30

場所：土庄町福祉会館 集会所
参加費：1,000円 (3 部 分)
対象：18 歳以上の女性
定員：12 名 先着順

Mar Cuervo (女性)さんはアーティスト・イン・レジデンスの作家として約2週間、小豆島に滞在します。彼女は、隔られたコミュニティにおける女性の生き方を考え方に興味があるそうです。そのため、対象は女性とさせていただきます。



【お申込み・お問い合わせ】NPO 法人オリーブ生活文化研究所 0879-62-0221



▲滞在中のワークショップや創作活動等の様子

ごあいさつ

マル・クエルボ

まず、小豆島という美しい島に訪れ、二週間の滞在中にこの島に生きる女性たち取材するというプロジェクトに参加する機会を与えてくれた NPO 法人オリーブ生活文化研究所とアート・ビオトープに感謝したいと思います。

島の人を対象としたワークショップでは、みなさんがピンホールカメラをどうやって作るのか分からないながらもワクワクしながら参加してくれたことがその原動力となりました。また私自身にとって、それは原点を振り返る良い機会となりました。

このプロジェクトに参加してくれたひとりひとりの女性、また私に小豆島の女性たちについて理解する手掛かりをくれた多くの人に深く御礼申し上げます。この感謝の気持ちは、永遠に私の心の中に在り続けることでしょう。

心をこめて

I would like to thank “NPO The Olive Culture and Lifestyle Institute” and “NPO ArtBiotop” for the opportunity of visiting the beautiful island of Shodoshima and being able during these 2 weeks to begin a project with the women who live here.

It has also been a pleasure to see how the pinhole cameras came up, the excitement of the unknown and the surprise of the unexpected are the fuel of this workshop and seeing the result of it has been an extreme reward to me.

I would specially like to thank every single woman who is now part of this project, and who helped me to understand how women in Shodoshima are, for that I will forever be grateful.

Sincerely,



▲滞在成果の作品